

「会員短信 14」

「令和徒然」 百千草

「平成」は戦争もなく無事に終わり、「令和」を迎えた。しかし、度重なる強行採決で、戦争の出来る国になってしまったことへの危惧が募る。「令和」は、万葉集の序文から用いられ「梅の香の云々」と美しい解釈を聞かされているが、素直には受け止め難い。

「令」は国語辞典に、「命令の意を持つ」とある。用法では「法令」「律令」と、国の掟に支配されるイメージが付きまとう。「和」の文字とセットにして何とか柔らかくボカされているが、この平和をどうやって守ってゆけるか、真剣に受け止めたい。

さて、そんな危うい時代の中、歳のせいかわ「失敗」することが増えてきた。例えば、食材を誤って組み合わせてしまう。ただそのおかげ？ で何とも美味になることがあり、時に「発見」に繋がることもある。「失敗は発見の素」である。また「隠し味」も最近の気付きの一つ。これまで使ったことのなかった調味料を入れてみると、気が付かない程度の微量でも、もう無くてはならない味となる。面白い。それから「まわり道」の楽しさにも最近、気が付いた。思わぬ出会いがあったり、意外な順路を発見したり…。「失敗」も「隠し味」や「まわり道」も、俳句における姿勢に通じるものがある。大切にしたいキーワードである。

ラジオから「山カフェ」が流れてきた。石丸謙二郎の語り口に癒やされながら、平和を噛みしめながら、ちょっと寄り道の珈琲タイムとしよう。